

映画

# サクラサク

原作：さだまさし『サクラサク』（『解夏』幻冬舎文庫収録）

～平成26年4月公開予定～



## 町内各所で撮影

10月12日から23日にかけて、福井県内で映画「サクラサク」の撮影が行われ、主演の緒形直人さんらが美浜町を訪れました。

この映画は、さだまさしさんの短編小説『解夏』（幻冬舎文庫）に収録されている「サクラサク」を原作としたもので、父親がかつて住んでいた福井県美浜町への旅を通じて、家族が絆を取り戻すストーリーです。

10月3日に東京で撮影を開始した後、9日に長野での撮影を経て、12日から勝山市・あわら市・福井市・美浜町内で撮影を行い、22日には早瀬の瑞林寺でクライマックスシーンの撮影が行われました。

田中光敏監督（写真右）は、「3週間にわたり生活を共にしていく中で、本当の家族のように温かくなっていく姿をみる事ができた。この映画の節々にも表れている」と話され、その言葉どおり出演者たちは、田中監督の掛け声のもと、瑞林寺本堂で熱のこもった家族の演技を繰り広げていました。

映画「サクラサク」は、平成26年4月に全国約150の映画館で公開予定となっています。

## 出演者からメッセージ

撮影後、出演者から福井県の印象や美浜町へのメッセージをいただきました。

— 緒形直人さん（写真右から3人目）  
「日向漁港が気に入りました。休日にはぜひ釣りに来たいです」

— 南果歩さん（写真右から2人目）  
「自然もさることながら、古い町並みの中で、皆さんしっかりと地につけて生きていると感じました」

— 矢野聖人さん（写真左）  
「自然の中でリフレッシュできました。寒い現場での炊き出しに感謝です」

— 美山加恋さん（写真左から2人目）  
「頑張ってたねと、たくさん声をかけてもらい、温かい人がたくさんいると感じました」

— 藤竜也さん（写真左から3人目）  
「美浜町がすっかり好きになりました。また訪れたい気持ちでいっぱいです」



↑早瀬の民家や路地での撮影

## ストーリー

主人公の俊介は、エリート企業戦士として将来も有望視され、部下からも信頼が厚い人物である。しかし、家庭では妻との関係は冷え切り、次第に息子、娘ともうまくいかず、大崎家は家庭崩壊寸前であった。

そんな生活の中、同居する父親が認知症を発症したことから、俊介は家族との絆を取り戻すべく、家族を連れ出し父親の故郷へ旅をする。

## 監督

田中光敏 氏

2001年東京国際映画祭コンペ作品「化粧師 - kewaishi」で映画監督デビュー。

2003年さだまさし原作「精霊流し」を映画化し、第21回日本映画復興奨励賞を受賞。

2013年「利休にたずねよ」(2013年12月公開)がモントリオール世界映画祭で最優秀芸術貢献賞を受賞。

## 脚本

小松江里子 氏

主な作品として、NHK朝の連続テレビ小説「どんど晴れ」、大河ドラマ「天地人」を担当。2008年橋田賞を受賞。

## キャスト

大崎 俊介・・・緒形 直人

大崎 昭子(妻)・・・南 果歩

大崎 大介(長男)・・・矢野 聖人

大崎 咲子(長女)・・・美山 加恋

大崎 俊太郎(父)・・・藤 竜也



↑瑞林寺本堂でクライマックスの重要なシーンを撮影

## 映画の成功祈り ～サクラサク応援隊が撮影を応援～

撮影期間中は、エキストラや炊き出し等、多くのボランティアの皆さんから応援をいただき、無事撮影を終えることができました。ご協力いただきありがとうございました。



美浜町観光協会  
副会長  
松井 あけみ さん



↑瑞林寺(早瀬)のロケでは、早瀬区長をはじめ、子供歌舞伎保存会の方々や多くの区民が参加

撮影の合間に、出演者やスタッフの方々に美浜の味を堪能してもらおうと、出来立ての温かい料理を提供しました。

町内の皆さんで映画を盛り上げるため、映画サクラサクに因んだ、豆乳プリン(桜の花びら入り)も観光協会で作りました。

原作の「サクラサク」を読みました、とても良い話なので、映画には期待しています。

全国の皆さんにぜひ観てほしいですね。



↑美浜町観光協会が中心となり、へしこ茶漬け、へしこ寿司、たこ飯、ふぐ汁、焼きイカ等を振る舞い